

第64期（2011年4月期）日本語研修コース

鹿 島 央

今年度4月期の大使館推薦の研究留学生は22名で、文系部局12名、理系部局10名であった。名古屋大学へ進学する研究留学生が21名、残り1名は中部大学であった。文系部局では、国際開発研究科が8名と昨年度と同様に多かった。

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費研究留学生は、17ヶ国22名（カンボジア、ベトナム各3名、バングラデシュ、フィリピン各2名、イスラエル、イラク、イラン、インドネシア、ウズベキスタン、コロンビア、セネガル、タイ、ブラジル、ベネズエラ、ホンジュラス、マダガスカル、各1名）であった。今回、22名のうち8名が全学向けの日本語講座を受講した。内訳は、IJ112（全学集中日本語初級後半）1名、IJ211（全学集中日本語中級前半）3名、IJ212（全学集中日本語中級後半）3名であった。

1名（医学研究科）については、当初研修コースを受講していたが、研究上の理由により第5課までのテスト前にIJ111に変更した。

以上のように、第64期は研究留学生22名のうち14名が日本語研修コース、残り8名は全学向け日本語講座を受講した。

2. クラス編成

授業は、昨年度と同じく2クラス編成とし、専任教員2名、非常勤講師9名の計11名が担当した。

3. 時間割と日程

授業はこれまでのように月曜日から金曜日まで、午前8時45分から午後2時30分まで90分授業を3コマ行った。

コースの日程は以下の通りである。

4月8日（金）開講式、4月11日（月）授業開始、夏季休業7月21日～8月28日、8月29日（月）授業再開、9月6日（火）修了式

4. カリキュラム

カリキュラムは、(1) 主教材 A Course in Modern Japanese[Revised Edition], Vols. 1 & 2（名古屋大学日本語教育研究グループ編）を中心とする授業、(2) その他の活動（テーマを決めてワープロで書き、話す：楽しかったこと、趣味、国の観光地、国との違い）、ホームビジット (3) 専門について話す、の3つで構成した。以下に、概要について報告する。

(a) 教科書を中心とする授業（1～14週）

これまでのように夏休み前に主教材である A Course in Modern Japanese, Vols. 1 & 2 が終了するカリキュラムとし、最終テスト、話すテストを行った。筆記テストのチェックは夏休み明けに行った。以下は、授業内容である。

・ Drill

Notes on grammar を読んでくることになっているが、なかなか徹底しない。このため授業内での教師の文法説明に対して、理解度に差が出ている。

・ Dialogue

Dialogue が実際の場面で役に立ったというコメントが多く、学生からあった。

・ Discourse Practice & Activity

各課の Discourse Practice にもとづくロールプレイなど口頭練習を行った。

対面での授業を休む許可をもらう練習、指導教員と会う約束、断りを電話で行う練習などである。重要かつ楽しい活動であるとの評価を得ている。

- ・ Aural Comprehension
宿題として各課の Aural Comprehension を聞いてく
ることになっている。
 - ・ Reading Comprehension
読む練習まで予習してくる学生は非常に少ない。
 - ・ WebCMJ (10課まで授業として)
 - ・ 漢字および漢字セミナー
300字の導入と練習。教え方は、教師により異なる
が、14名のうち13名は満足しているというアンケー
ト結果である。『KANJI&KANJI』を貸し出してい
るが、使用率はかなり減っている。
 - ・ Dictation
5課まではこれまでの方法で行い、6課からは文レ
ベルとした。
 - ・ Conjugation Quiz
活用クイズを適宜行った。
- (b) その他の活動
- ・ 話す練習
話すテーマはこれまでと同じで「楽しかったこと」
「趣味について」「国の観光地」「国との違いについ
て」についてワープロで原稿を書き、話す活動とし
て口頭発表を行った。合同クラスでの発表形式は、
刺激も多くいいようである。日本人ゲスト (各回3
名)にインタビューする活動も例年通り2度行った。
 - ・ 書く練習
ひらがなをいかに早く覚えるかが、このコースでは
鍵をにぎるが、今期も覚えられず苦労した学生がい
た。まとまりのある文章、あるいは主観的な文章を
書くところまでは時間的に余裕がない。話す練習で
の原稿作成をワープロを用いて行なう程度の書く練
習である。
 - ・ Pronunciation Practice
目的は、例年のように特殊拍の長さの知覚とアクセ
ントの下降の位置の知覚ができるようになること
である。
 - ・ ホームビジットプログラム
ホームビジットプログラムは、7月第2週目の土
日に実施した。
日本人の生活を実際に見てみることで、日本語での体
験をすることが主な目的である。今回は、7軒を訪
問したが、三重県桑名の方が一番遠く、あとは名古
屋市内であった。

(c) 「専門について話す」(第15週)

このプログラムでは各留学生それぞれが持ち時間8
分(質疑応答も含む)で専門領域について発表した。
発表は207講義室で行った。

5. アンケート結果

(1) コースの満足度

4段階で評価してもらった。「3:とても満足」から
「0:まったく満足していない」で、
13名中11名が「3」、2名が「2」の評価であった。

(2) 自身の学習成果への満足度

4段階の評価で、「3:とても満足」から「0:ま
ったく満足していない」。13名中4名が「3」、8名が
「2」、1名が「1」の評価であった。「2」の評価をし
た学生では、もっと努力すべきだったと回答している
ものもあった。全体的には、期待していたほどできる
ようにはならなかったと回答した学生も2名いたが、
11名については、期待していたのと同じか、期待以上
の成果があったと回答している。

(3) アンケート項目

今回のアンケートでは「この6カ月間、どのよう
にしてモチベーションをたもつことができましたか」と
いう項目を入れてみた。以下のようないくつかの回答
である。

- ・ 英語だけではよくないと考え、よい機会を逃がして
はいけない
- ・ 国の代表としてここにいる
- ・ 日本にいる間に必要だし、技能があれば多く学べ、
楽しめる
- ・ もっと学びたいと思っている
- ・ たえず新しい文法、語彙などが出てくるので、
motivationは大した問題ではなかった

6. まとめと問題点

今期は、レベル差があってもお互いにクラスの中で
協力し合うという姿勢の学生が多く、いい雰囲気
のクラスであった。ただ、中には専門との兼ね合いが
難しく、習得に困難な状況の学生もいたため、授
業後に特別の個別のクラスで対応した。例年、前
期には入試を控えていて、何かと問題を抱えてい
る学生がいるが、今期はそのような傾向は顕著
ではなかった。指導教員

が日本語に集中するようになっていたので、専門の勉強は特に忙しくなかったという学生も5名いた。留学生にとって、最初の6カ月がどのような意味合いをもつかは、指導教員との関係が重要であることを強く感じた次第である。